

研究者・R&D部門スタッフが押さえておくべき： 研究開発テーマ評価法の基礎知識

～テーマ評価における代表的評価法と評価の全体体系を学ぶ～

■ 日 時 ■ 2015年 10月20日 火曜日 13:00～17:00

■ 会 場 ■ 東京・麹町 一般社団法人 企業研究会 セミナールーム

■ 講 師 ■ ベクター・コンサルティング株式会社 代表取締役社長 浪江 一公 氏

大手電機メーカー、アーサー・D・リトル(ジャパン)㈱、㈱フュージョンアンドイノベーション等を経て、現在ベクター・コンサルティング(株) 代表取締役社長 経営及び技術マネジメントに関するコンサルティングにおいて20年以上の経験を有す。日本工業大学大学院 技術経営研究科教授を兼任。

北海道大学工学部、米国コーネル大学経営学大学院(MBA)卒 著書・訳書に「プロフィット・ピラミッド 超高収益を実現する14のシンプルな法則」(著書) ダイヤモンド社(韓国語及び中国語でも出版)、「エマソン 妥協なき経営」(訳書) ダイヤモンド社、その他共著・共訳、雑誌への寄稿多数近著(翻訳):「ステージゲート法 製造業のイノベーションマネジメント」(原著「Winning at New Products」 ロバート・クーパー著) 英治出版 2013年

■ 本セミナーの特徴 ～以下3つの方針・目的で本セミナーを進めます～ ■

- ✓ 研究/開発者にとってテーマ評価上、押さえておくべき代表的評価法のコンセプトとそれらを利用した評価の全体体系を学びます。
- ✓ それらコンセプト・用語を学ぶにあたり、研究開発テーマ評価の「取り巻く環境」「問題」を理解した上で、それぞれの評価法の活用ポイントとその重要性の理解を図ります。
- ✓ 本セミナー受講後には、「研究者・開発者として知らなければならない代表的・基本的評価法の基礎と全体体系をきちんと理解している」と言えるレベルの達成を目指します。

《代表的な研究開発テーマ評価法のポイントと特徴》

- ・直感法 ・対話法 ・スコア法 ・STAR法 ・BMO法
- ・財務的手法：ディスカウント・キャッシュフロー法、回収期間法
- ・ステージゲート法(全体評価体系として) 等

● 参加要領 ●

● 受講料 ● 1名(消費税8%込み、資料代含む)

正会員	32,400円	本体価格 30,000円
一般	35,640円	本体価格 33,000円

● 申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あてに FAX いただくか、当会ホームページからお申し込みください。後日(開催日1週間～10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。

● 申込書を FAX にてご送信いただく際は、FAX 番号をお間違えないようご注意ください。

● 会員企業のご確認、その他セミナーに関するご不明な点につきましては、当会ホームページより [TOP] → [公開セミナー] → [よくあるご質問] をご参照下さい。http://www.bri.or.jp

● 最少催行人数に満たない場合は、中止とさせていただきますことでもありますので、ご了承下さい。

一般社団法人 企業研究会

担当：早瀬 E-mail: hayakan@bri.or.jp

〒102-0083 千代田区麹町 5-7-2

麹町 31MT ビル 2F

TEL 03-5215-3512 FAX: 03-5215-0951

151578-1001※		15-10-20 R&D スタッフのための研究開発テーマ評価法の基礎知識	
会社名			
住所	〒 -		
TEL	FAX		
部課 役職		フリガナ	
		お名前	
e-mail			

※お客様の個人情報は、本研究会に関する確認・連絡および当会主催のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

13:00

1. 研究開発テーマ・マネジメントを取り巻く環境

- (1) 21世紀の日本企業が置かれている現実
- (2) 日本企業が行く道
 - ・革新的なテーマの創出の必要性和不確実性
- (3) 日本企業の研究開発マネジメントの現状
- (4) 研究開発テーマ・マネジメントの重要性の増大

2. 研究開発テーマ・マネジメントの見極めのマネジメントの問題例

- (1) 評価者の属人的な評価尺度
- (2) 研究者の熱意の過度の重視
- (3) 不確実性を軽視した評価 など

《休憩》

3. 様々な研究開発テーマ評価法：具体的内容と特徴

<非財務法>

- (1) 直感法
- (2) 対話法
- (3) スコア法
 - ・BMO法
 - ・リスク-リターン法
 - ・STAR法

<財務法>

- (4) ディスカウント・キャッシュフロー法
 - ・NPV（正味現在価値）法
 - ・IRR（内部収益率）法
 - ・ディスカウント・キャッシュフロー法を使う上での注意点
- (5) 回収期間法

《休憩》

4. 良い研究開発テーマ評価システムの要件

- (1) 個別の研究開発テーマ評価法『木』の限界：『森』をきちんと設計する
- (2) 『森』すなわち研究開発テーマ評価の基本フレームワーク
- (3) 良いR&Dテーマ評価システムの要件
 - ・不確実性・複雑性に対処しながらも分かり易い評価体系
 - ・評価者・担当者間で納得感・信頼感がある
 - ・事業・製品で成功するための重要なポイントをきっちりおさえている
 - ・社内の英知を集めることができる
 - ・革新的なテーマを正しく判断し意思決定ができる

5. 上の要件を踏まえた全体評価体系としてのステージゲート法

- (1) ステージゲート法とは？
- (2) ステージゲート法の工夫
- (3) ゲートでの評価項目

6. 最後に

17:00

《講師と同業。同職種の方のご参加は頂けない場合がございます》
《質疑応答は講義中に随時・適時承ります》